

広島港宇品・出島地区基本構想検討会

第2回検討会 議事概要

日時:平成 29 年 1 月 27 日(金)13:30～15:34

場所:TKP 広島平和大通りカンファレンスセンター「ホール 3A」

1. 資料説明

- ・主催者が「広島港宇品・出島地区基本構想検討会第2回検討会資料1 第1章～第4章」を説明。

2. 「第1章～第4章」に対する質問

- ・ 質問なし。
- ・ 第1回検討会の意見を踏まえて、課題の追加を行っているということによいか。(会長)
→そのとおり。(主催者)

3. 資料説明

- ・主催者が「広島港宇品・出島地区基本構想検討会第2回検討会資料 第5章～第6章」を説明。

4. 「第5章～第6章」に対する主な意見

- ・ 広島のように東西に長く、それぞれ機能が異なる地区を有する港湾である場合、スムーズな交通体系がないと困る。スムーズな交通体系が円滑かつ迅速な荷役につながるため、交通ネットワークの強化が必要である。
- ・ カーフェリーはモーダルシフトの受け皿に十分なる。トラックを運ぶ広島～松山の基幹航路(フェリー)の強化、それに耐えられる港をつくることを意識してもらいたい。
- ・ バリアフリーの観点の記述が極端に少ない。船舶のみならず旅客ターミナルのバリアフリーについては時代の要請であり、整備の方向性も含めて強調するべきである。
- ・ 広島は倉庫のスペースが不足しており、倉庫を建てるのであれば、ふ頭の機能と隣接した場所に建てるべき。出島および海田のコンテナターミナルの将来を考えたとき、物がどちらからどう流れているのかを想像することが必要で、以上のことから、ふ頭と一体となった物流拠点用地として、出島に倉庫などのスペースを十分確保してもらいたい。
また、段階的な埋立により、遂次土地利用が可能な環境にしていくべきである。
→物流企業・輸出関係企業の方々のニーズを踏まえて、スケジュール感をもって施設整備の取組を進めていきたい。(主催者)

- ・ 出島地区に計画している緑地は、収益が見込めるゴルフ場や海釣り公園としての利用を検討してはどうか。
 - ・ 出島地区に計画している旅客船ふ頭は、廿日市地区木材港に計画してはどうか。投下水面を埋め立てて、木材船と旅客船のための岸壁とする。廿日市地区は東西に長い広島港の西端にあり、東西を結ぶ物流を寸断してしまう危険性は最も少ないと思う。
 - ・ メッセ・コンベンション予定地を含む出島コンテナターミナルの背後は全て港湾関連用地としてはどうか。
- 出島地区における物流機能と賑わい機能の両立に向けて、どういう機能配置をしたらいいのかという大きな提案を頂いた。ご意見を受け止め、検討を進めていく。(主催者)

- ・ 円滑な交通機能が非常に大事だと考えるので、そこはしっかり入れ込んで欲しい。
- ・ 「交流拠点」「環境・緑地レクリエーション」ゾーンについては、当地区のみではなく、広域都市圏の中での位置付けを示す必要がある。
- ・ 物流の過程で流通加工などの付加価値を付けていくことになるため、コンテナターミナルと一体となった物流拠点用地を確保する必要がある。
物流拠点と工場をストレートにつなぐ流れを目指していただきたい。
海田地区のコンテナターミナルはフル活用の状態であり、出島地区が段階的に整備されれば、十分に活用される。
- ・ 宇品外貿地区には五日市地区のような上屋がなく、入国検査がしづらい。賑わい・交流の広島港を目指すのであれば、恒久的なクルーズ客船の受入施設計画を検討していただきたい。
- ・ 臨海部の土地は非常に貴重なスペースであり、物流もしくは人流の機能で利用する場合においても、この場所でなければならないことを最優先に検討していく必要がある。
- ・ 物流・産業と人流・賑わい双方の機能を適切に確保できるような棲み分けができるのであれば、それらが近くにあっても構わないし、むしろ物流・産業の様子がオープンな方が、一般市民から港はもっと身近なものに感じられる。
- ・ 宇品・出島地区は、物流・人流の結節点で、極めて大きいポイントであり、海上物流をいかに道路につなぐかという観点が必要である。
- ・ 目的が違うものが交錯する状況を避けるためには、利用者にもわかりやすいゾーニングが必要だと考える。
- ・ 宇品旅客ターミナルは、離島だけではなく、四国も含めた人流の結節点となっており、路面電車をはじめとした公共交通機関がスムーズにつながった交通体系が維持されるべきだと考える。

- ・ 広島市は広島広域都市圏の23の市町と連携して、圏域経済の活性化と圏域での人口の200万人超えを目指している。こういった構想の実現のため、宇品・出島地区における港湾、流通、交流拠点機能の強化と賑わい創出を同時並行的に図って行くことができればよいと考えている。特に宇品地区においては、より一層魅力的で、賑わいを創出する土地利用となるよう検討する必要があると考える。
- ・ 課題解決の方向性を示す時に、いくつかのメニューについて優先順位や順序立てを行うことで基本構想が分かりやすくなる。
- ・ 宇品・出島地区は、物流機能の拠点であるべきだが、外相サミットなどの高いセキュリティが必要なイベントを円滑に開催できる能力を兼ね備えている。
- ・ 災害により国際戦略港湾が機能不全になったときの広島港の役割は何かを考えておくべきである。
- ・ 港湾のインフラ整備に対して、様々な期待が寄せられているのは分かるが、全てに応えられるものではない。よって時勢に合わない数十年前の計画はスクラップして、土地を有効に活用すべきであると考え。
- ・ 貨物を増やす取組として、企業誘致に力を入れていただきたい。企業誘致の際には、PPP／PFIの手法を利用した長期の土地リースについて検討を行っていただきたい。
- ・ 倉庫などの老朽化施設の機能再編に直ちに取り組んでいただくとともに、港頭地区の最も価値がある資産は土地であるから、土地利用の高度化を目指していただきたい。
- ・ これまでの計画の経緯は尊重すべきだが、それにこだわらず現時点においてベストなプランを作るべきである。
- ・ 東西の関係を踏まえた臨海地域全体で、広域的な視点として広島都市圏なり広島市の内陸部との関係、さらには瀬戸内海、島しょ部、また四国との関係も見据えたうえで検討することが大事だと思う。
- ・ 「検討会」では、構想を検討するのではなく、大きな構想のもとで具体的に何をするかという「行動計画」つまり何を実現していくのか、具体化していくのかということが大事だと思う。